愛媛県

果試ニュース

第３号　　平成８年11月

傾斜地園の基盤整備

みかん安定多収の肥培管理

場長　向井　　武

本県８年産みかん予想収穫量（10月１日現在）は、統計情報事務所の調査によると、前年を大幅に下回り、17万9,600ｔで前年対比80％となっています。

これは、結果樹面積も３％減少していますが、なんといっても平均単収が16％も少なかったことによるもので、この主な原因は相次ぐ干ばつなどの気象の影響をうけて、樹勢が弱くなっているところへ、冬季の寒風による落葉が重なり、貯蔵養分の不足から開花結実が大きく狂ったためと考えられます。やはり、ふだんから土づくり、根づくりなどの基本管理に徹して樹勢を保つことこそ、干ばつ等の異常気象にも耐えて単収をあげることができるというものです。

夏秋梢が多く発生した不作園は、そのままにしておくと来春に着花過多となって、強い隔年結果を引きおこすことになります。これからの土壌管理、せん定や施肥等は着花を抑え、隔年結果を防ぐために徹底した管理が必要です。

試験場は、こうした産地の状況をふまえながら、果樹経営の安定に役立つべく試験研究に精いっぱい取り組んでいますので、あたたかいご支援をお願いします。